100年、飛翔のキセキ

次代を見据え、時代に挑み続けたこの軌跡を、
次の奇跡につなげて。
100年先の大空へ、
新たなる挑戦はすでに始まっています。

本学園は、設立者・校主 本庄京三郎、校長・工学博士 片岡安と12人の創設理事などが開校に向け尽力し、1922（大正11）年9月7日、時の大阪府知事 池松時和氏から設置認可を受け創設した関西工学専修学校がそもそもの始まりです。

時代と地域の要請に応え、中堅技術者育成を目的に開校した関西工学専修学校は着実にその役目を果たし、多数の卒業生が地域で活躍。それを受け技術者教育を看板としたさまざまな学校を併設する技術系総合学園として展開し、やがて高等教育をも担うまでに発展しました。現在では、大阪工業大学・大学院、摂南大学・大学院、広島国際大学・大学院、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校を設置する総合学園へと成長を遂げ、約2万5千人の学生・生徒が学んでおり、延べ約31万人の卒業生が社会の各分野で活躍しています。

2022年、学園は創立100周年を迎えます。永い歳月の中、常に「変わらない信念」を抱き続け、そして、時代の要請に応え「変わり続ける」ことで、常翔の名の如く飛翔100年という大きな節目を迎えます。

片岡安初代校長による創設期生徒へのメッセージ

私が言う「立派な人」とは誰でも尊敬する各方面より見て得がたい、頼もしい人となって欲しいのであります。これが国家社会の要求する人であり、家族友人も要求するところの人であります。

かくのごとく人となるには如何にすればよいかと申しますに、そもそも人は努力、心掛けによって全知全能に近いものになりうるのであります。人によってはその能力を伸ばし得るものと伸ばし得ないものとがあります。ある程度までしか伸び得ぬ人もありますが、すべての困難を排して近づかんとする真剣味のある人はその目的を達することができるのであります。もっとも、一歩一歩を踏んしめて山に登るようなものでありまして、これは人生の極致であります。このような人は野心大望を持たなくとも周囲より尊敬され指導者となり得る人であります。人を指導する人になり得ることも少なくともその周囲の人々の指導者となり、明星となり得るのであります。

かかる人はやがて大いなる星となり得るに定まっています。（中略）諸君も一歩一歩緊張味を持って自己のベストを尽くしてやっていれば、やがて、向上発展の途が開けて来るのであります。最初から五段も六段も跳び上がるということを期待するのは間違いであります。こうして終局において高いところから大きい範囲を支配し得るに至るのであります。

―関西高等工学校卒業式講示から―

「立派な人、明星となれ、そして大いなる星に向かえ。そのために、自らの一歩一歩に緊張味を持ってベストを尽くせ！」

本庄 京三郎
ほんじょう きょうさぶろう
設立者・校主
1868年岡山県生まれ。1891年東京法学院（現 中央大学）卒業。日本有数の開墾付属地として知られる西宮市甲陽園の開発を はじめ多くの企業経営に携わるなど、新しい街づくりを進めた実業家でした。

片岡 安
かたおか やすし
初代校長・理事長
1876年石川県生まれ。1897年東京帝国大学工科大学（現 東京大学）卒業。大阪市役所公会堂等は比べ類多くの建築設計に関わる。日本建築協会、大阪工業会理事長、京都帝国大学講師などを務めた都市計画のパイオニアでした。

学校創設の時代背景

時代は技術者育成を急がせた。

大正期から昭和初期の大阪市は、これまで築いてきた商工業都市としての基盤に加え、市域の大幅な拡張もあって人口や経済規模において東京市を凌駕し、日本で最も繁栄する都市へと急速な発展を遂げました。

都市には産業の根幹を担う生産拠点ができ、人々が流入してきました。そのようななかで工場では、ものづくりの組織を指揮するとともに自らものづくりを実践できる者が、また都市基盤整備事業においては、設計から現場での監督までもこなせる者が求められていました。しかし、産業界の急速な近代化に対応できる技術者の数が不足し、即戦力となる技術者の養成が急がれました。

当時、わが国の工業教育に対する認識は浅く、特に商業中心の大阪での工業教育機関は微々たるものに過ぎませんでした。このような時代に、将来、工業技術者の必要な時代が必ず到来することを察知し、私立学校の経営では最も難しいといわれる工業教育に、あえて踏み切った関係者のパイオニア精神は注目に値します。

「急速な発展により、産業を支え、あるいは都市としての基盤整備を担う技術者が絶対的に不足。」

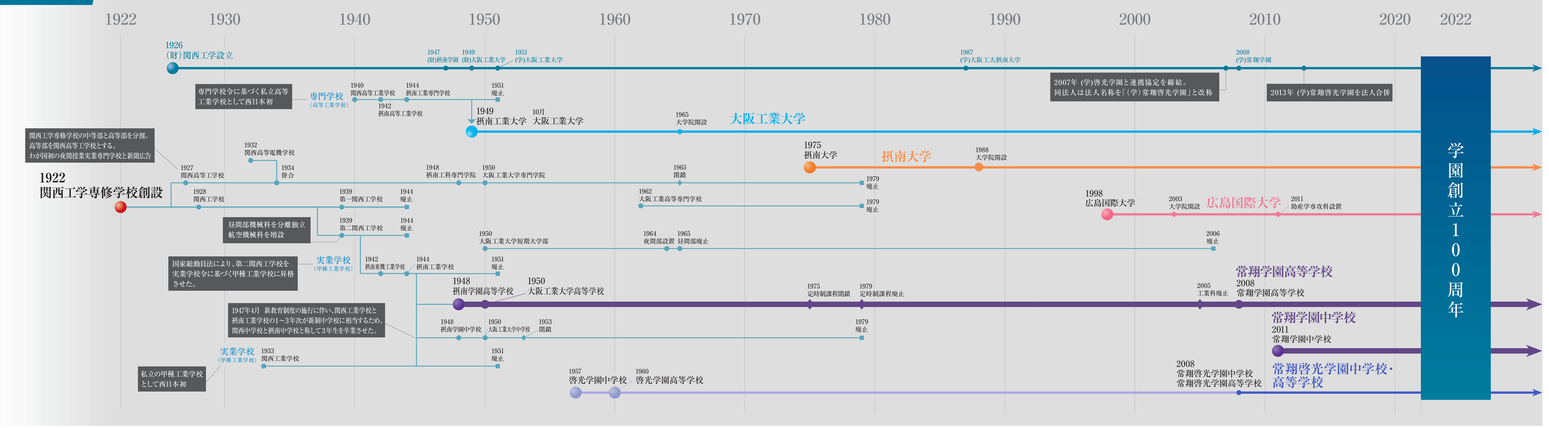
学校法人常翔学園は、2022年10月30日に創立100周年を迎えます。

JOSHO GAKUEN JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL
常翔学園中学校・高等学校

学園のあゆみ *Since1922*

建学の精神

世のため、人のため、地域のため、
理論に裏付けられた実践的技術をもち、
現場で活躍できる
専門職業人を育成する。



常翔学園中学校・高等学校history *Since1948*

遥かなる、高みへ。

常翔学園高等学校は、旧制実業学校であった「関西工業学校（1933年開校）」と「摂南重機工業学校（1942年開校）」が、新教育制度の下で1948（昭和23）年に開校したものです。
このような長い歴史と伝統の中、2011（平成23）年には新たに中学校も加え、中高一貫教育を行っています。充実した進学指導とキャリア教育で、高い学力と人間力を兼ね備えた人材を輩出し、誰もが入学を強く望む地域有数の進学校を目指しています。

■ 教育の理念

「自主・自律」の精神と幅広い「職業観」を養い、目的意識を持った進学の実現により、将来、実社会で活躍できる人材を育成する。

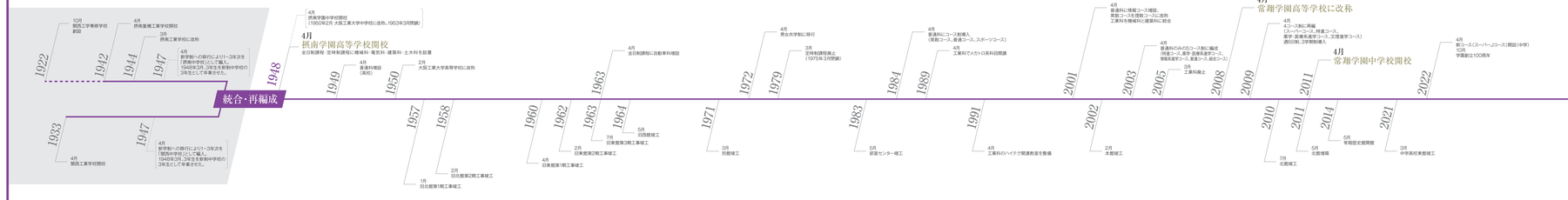
Message from the Principal

校長 田代（たしろ） 浩和（ひろかず）

未来の、その先へ。

学園の創成期から昭和の大戦後の復興、その後の高度経済成長期を経た現在の躍進を思い起こすと、本校はまさにわが国の科学や経済の進歩と共に歩んできた感があります。そしてこの10年は、これから迎える激動の時代を生きる力を子どもたちに身につけてもらうため、私たちはICTを使った教育や探究、グローバル教育など新しい教育の研究開発に邁進してきました。

どんどん加速し、変化する世界。子どもたちはこれから人類史上、誰も経験したことのない未知の世界を生きることになります。次の100年も、私たちはチャレンジャーであり続け、ディストピアの未来ではなく、人と地球に優しいユートピアを創るため、「未来の、その先にあるもの」を追求して参ります。



社会の動き

1923 関東大震災
1945 日本がポツダム宣言を受諾し終戦
1946 日本国憲法公布
1947 教育基本法、学校教育法公布 新学制（3年制義務教育）の小学校・中学校発足
1950 朝鮮戦争勃発（1953年に休戦）
1960 新日米安全保障条約締結
1961 東西ベルリンの境界に壁
1964 東京五輪開催 東海道新幹線開業
1969 アポロ11号が月面着陸成功（人類初）
1970 大阪万博開催
1973 第4次中東戦争勃発で第1次石油ショック
1975 ベトナム戦争終結
1976 ロッキード事件で田中角栄前首相逮捕
1979 国公立大学の共通1次学力試験を初実施
1983 東京ディズニーランド開園
1985 創務原発重大事故 日航機墜落
1986 チェルノブイリ原発事故
1989 元号が平成に改元 東西ベルリン壁崩壊
1990 第1回大学入試センター試験を実施
1992 学校週5日制開始
1995 阪神・淡路大震災 東京地下鉄サリン事件
1998 長野冬季五輪開催 民主党が結党
2001 9・11米国同時多発テロ事件発生
2011 東日本大震災、福島第1原発事故
2019 元号が「令和」に改元 ラグビー日本 日本大会開催（アジア初）
2020 新型ウイルス感染症（コロナウイルス）の世界的大流行 東京オリンピック・パラリンピックに延期
2021 東京オリンピック・パラリンピック開催 東京オリンピック・パラリンピック開催 東京オリンピック・パラリンピック開催

学校法人常翔学園
Josho Gakuen

大阪工業大学 摂南大学 広島国際大学 常翔学園中学校・高等学校 常翔啓光学園中学校・高等学校